

この夏、大阪で 起きた事件は、世の中を震撼させました。
まだ 逮捕された人物は 容疑者と言われている立場であって 黙秘を続けたまま 真相も 動機も 何も 全くわからない状態であることが 悲しみを一層 深くしています。けれども、今 真犯人として 断定されて、たとえ 死刑になったとしても 犯人の 成育歴や 犯罪歴が 公表され、事件の 経緯すべてが 解明されたとしても たった1つだけ 明らかで 確かなことは、2人の命は 決して 生き返らない・・・あの可愛い笑顔は もう二度と 見られない・・・という 残酷で 悲しい 現実です。ニュースで流れる 防犯カメラの 映像の中の 2人の無邪気な姿が 映されるたび 「この時は生きていたのに」と何とも言えない思いで 胸が痛くなってしまいます。どんなに 怖かったことでしょうか・・・目も口も ふさがれ、手も足も 拘束された 暗闇の中で 苦しくて 痛くて 泣き叫びたくて 気が狂いそうだったと 思います。何ひとつ 許されない状況で「お母さん！お父さん！」と 心の中で 何度も 呼び助けを 求め続けていたかもしれません。その 恐怖に震える 子どもの心を 弄び いたいけな 無抵抗の姿を 目の当たりにしながら 犯人は どんな思いだったのかなぜ あれほどまでに 惨いことをしたのかと、考えれば考えるほど 激しい憤りと 悔しさが とめどなく こみ上げてきます。2人にした 同じ状態のままで この先ずっと 生かし続けていったとしても、犯人は あの子達の 恐怖や 苦痛など 一切 永遠に わからないのでしょうか。いったいなぜ？と同じ 人として、大人として 言葉では表すことが出来ない 空しさと怒りでいっぱいになります。大人たちが 自分の欲望や 快楽、自分勝手な言い訳や都合で 子どもたちを おもちゃにする ましてや 命を犠牲にすることなど 決して 赦してはならないことです。大人は いつの世に在っても、すべての子どもたちを 守る使命を 与えられているのです。生かされている 命の尊さ、重さは 大人も 子どもも 誰も皆 人として 同じです。軽んじていい命など 存在しません。互いに傷つける権利は どこにもないのです。もう二度と こんな悲惨な事件が起こらないようにと祈りつつ、この世に生きとし 生けるものは 神様によって 生かされていること、私たちの 何もかも すべてが 神様から 与えられているという 『被造物としての分際』を 今一度 見つめ直し 命の根本について 想いを馳せながら 子ども達へ 切に伝えたいと 思っています。
『知れ。主こそ神。主が、私たちを造られた。

主に感謝し 御名をほめたたえよ。（詩篇 100：3）」
そして この事件を通して、もう1つ 考えさせられたことが 子どもにとっての 『居場所』です。あの2人は あの日 自分達の家を出て どこへ行くつもりだったのでしょうか。13歳の女の子が 何のために 自分のお小遣いで テントを 購入したのでしょうか。なぜ、あんな真夜中の 防犯ビデオに映っていたのでしょうか。あの2人に 必要だったものは、寝るための テントという “物的環境” ではなく ありのままを 受け入れてくれる 心満たされ ほっと安らげる、お金では買えない 『家庭』という “人的環境” である 心の居場所だったのではないのでしょうか。子どもばかりではなく すべての人にとって何より必要なものは お金では決して 手に入らない『愛』であることを 改めて痛感しながら 今を生きる全世界の人の 心の中に 創造主なる神様への信頼と愛が いつも育まれますよう お祈りします。

『愛は まず 家庭から 始まるのです。愛は 家庭に 住まうものです。

子どもたちは 家庭のなかに 愛やほほえみを 見つけることができません。

子どもたちは さびしすぎるのです。さびしさを まぎらわせるために 外へ

さがし求めに ゆくのです。（「マザー・テレサ 愛のことば」より）』（石田 記）